

エプソン健康保険組合

先進的な保健事業の実証 概要図 軽度の心筋梗塞・脳梗塞の重症化予防

事業目的

健保加入者の疾病の重症化予防事業の一環として、重症化による生活困難・介護状態へ移行してゆくことを抑制し生命の危険のリスクを下げ、将来の医療費の削減を図る。

レセプトデータを用いたデータヘルス対象者解析

- (1) 薬剤処方情報に元、動脈硬化性疾患リスク因子保有者を抽出
- (2) 被保険者における各リスク因子存在率は、高血圧7.7%、脂質異常症5.7%、糖尿病1.9%であり、3つ全てを保有する者が0.5%存在する。
- (3) 3年間の経時的変化から、リスク因子の保有者数がより若いうちから増えるのは男性であることが明らかとなった。
- (4) 以上の結果を元に、積極的支援の対象抽出や、動機付け支援やキャンペーン型支援に活用する方法を構築することが必要であると考えられる。

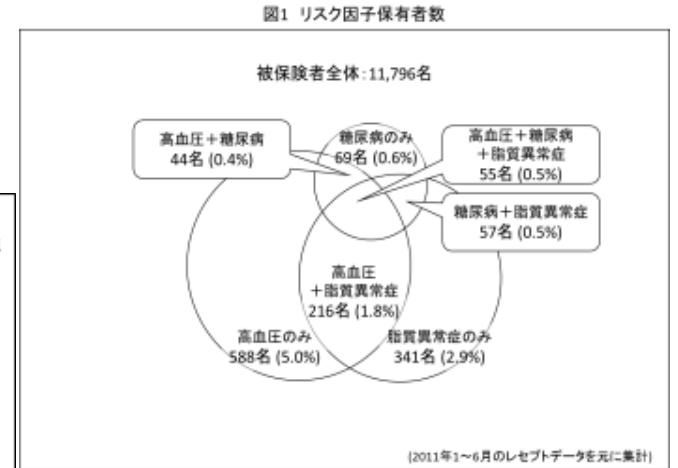
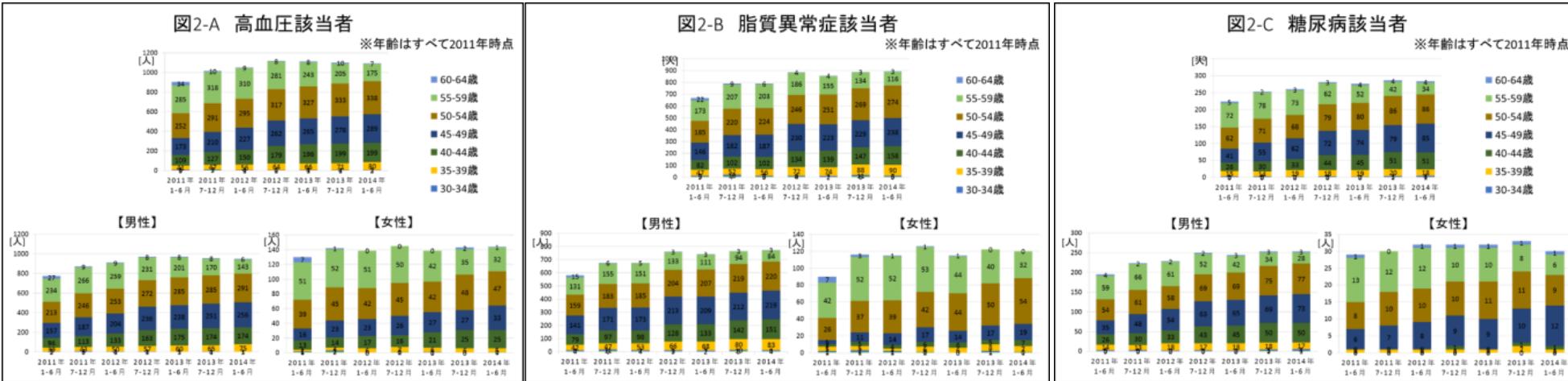


表: リスク因子保有者が大幅に増加する年代

	男性	女性
高血圧	35-39歳以上	40-44歳以上
脂質異常症	35-39歳以上	45-49歳以上
糖尿病	40-44歳以上	45-49歳以上



レセプトデータ分析を用いた保健指導体制の構築

1. 保健指導

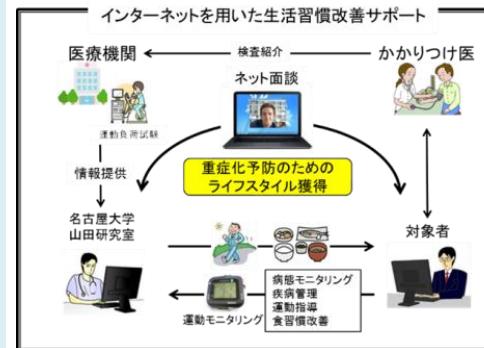
- ① 対象者の抽出 エプソン健康保険組合が保有している被保険者レセプトデータより年齢、事業所の所在地、診療履歴から対象者の抽出を行った。取り込み基準は、年齢は40歳～55歳、長野県の事業所に勤務し、診療履歴に「虚血性疾患」「脳血管疾患」の傷病(疑いを含まない)があるもの、とした。
- ② 対象者への周知 当健保の機関誌である「健保だより」の記事で周知し、対象者へメールで案内を実施。
- ③ 保健指導説明会の実施 メール案内に対して応募してきた対象者に対して、1対1対面式の説明会を開催した。医療機関での臨床経験を持つ理学療法士が面談し、インフォームドコンセントを行った。
- ④ 指導内容 名古屋大学大学院医学系研究科山田研究室の「インターネットを利用した生活習慣改善支援プログラム」(右に図示した)を用いて実施。

2. かかりつけ医・医療機関との連携

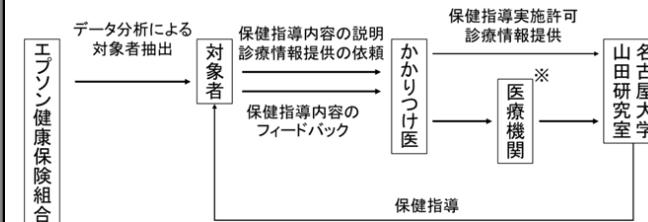
かかりつけ医へは保健指導実施許可と診療情報提供について対象者が直接依頼した。虚血性心疾患既往者は運動指導の安全性を確認するために、近隣医療施設での運動負荷試験ならびに心臓超音波検査をかかりつけ医より依頼して頂いた。

3. 個人情報保護

保健指導説明会を勤務地から離れた当健保の施設で行い、他の社員に知られない工夫をした。



保健指導プログラム



※虚血性心疾患既往者は運動実施に際しての安全性確認のため、運動負荷試験、心臓超音波検査を実施する

かかりつけ医・医療機関との連携

身体活動量・塩分摂取量 調査

1. 背景・目的

身体活動量は動脈硬化性疾患の発症を予測するリスク因子の一つであることが報告されている。これより健康診断項目の一つとして身体活動量を調査することができれば、疾病発症・重症化予防のためのスクリーニング検査として有用である。身体活動量を評価する質問紙を開発することを目的に調査を行った。

食塩の過剰摂取は動脈硬化性疾患や死亡を増加させることが知られている。食塩摂取量を質問紙にて簡便に評価することは、動脈硬化性疾患の発症・重症化予防に有効である。食塩摂取量を評価する質問紙を開発することを目的に調査を行った。

2. 方法・経過

質問紙作成にあたっては1) 質問紙項目の精選、2) 妥当性の検討、3) 信頼性の検討、の手順で行った。

質問紙項目の精選においてはエプソン健康保険組合被保険者から年齢・性別ごとに無作為に抽出し、セイコーエプソン社内のWebアンケートにて質問紙への回答を得た。これら回答結果より、質問紙項目を精選した後、現在は2)と3)の妥当性・信頼性の検討を実施しているところである。

アンケートによる質問紙への回答と、身体活動量計を用いた身体活動量調査および減塩モニタを用いた食塩摂取量調査を並行して行っている。

事業のまとめ

- (1) 重症化予防が必要な虚血性心疾患と脳梗塞を既往している者を、レセプトデータを用いて抽出し、名古屋大学山田研究室と共同で保健指導を行った。
- (2) 保健指導開始にあたり、レセプトデータ解析に際しての個人情報の保護、医療機関との連携の実際、インターネットを用いた保健指導などのシステムを構築した。
- (3) 保健指導と並行して、被保険者を対象に、今後の保健指導に必要となる身体活動量の調査と食塩摂取量調査を行った。
- (4) 今年度の体制を元に、次年度以降はNPO法人脳梗塞・心筋梗塞再発予防センターへ業務委託を行い、実効性のあるデータヘルス事業を展開する予定である。

運動だけではなく、健康維持に必要な日常生活の活動量を調査させていただきます。



【意義】
生活習慣病予防・改善のための活動量と、ご自分の活動量の差を調査し、健康生活のコンを提案させていただきます。

【測定方法】
左図の歩数計を身に付けて頂くだけです。

*測定期間は1週間(日中)です。

通常は測ることができない食塩摂取量を調査させていただきます。



【意義】
高血圧、脳卒中、心臓病などの生活習慣病発生と密接に関係する、ご自分の食塩摂取状況が分かります。

【測定方法】
寝る前と早朝の尿をためて頂き、測定機器のボタンを押して頂くだけです。

(カップに機器を差し込みと測れます)

*測定期間は連続した3日間です。